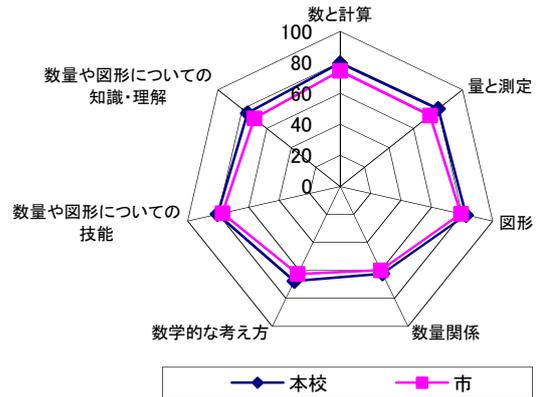


宇都宮市立西原小学校 第4学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	79.5	74.5
	量と測定	80.2	73.5
	図形	82.5	79.2
	数量関係	62.3	59.9
観点別	数学的な考え方	67.7	62.5
	数量や図形についての技能	80.4	77.1
	数量や図形についての知識・理解	75.7	70.2



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、宇都宮市の平均を5%上回った。計算の技能が高く、かけ算・わり算の計算問題では正答率が80%、分数と小数の計算問題では正答率が95%に達した。億と兆では、大きな数を十倍したり、十分の一にしたりする問題の理解が不十分であった。また、3年生の学習内容である数直線上に示された分数を読み取る問題の正答率が低かった。	計算の技能は高いが、基本的な考え方を基に活用を図る文章問題では個人差がみられたので、問題の意図を正しくとらえられるように、様々な演習問題に取り組ませる。億と兆では、大きな数を十倍、百倍したり、十分の一、百分の一にしたりする際の位の数に注目させて、重点的に指導していく。数直線上に示された分数を読み取る問題は、前学年の内容ということもあり、すぐに克服できた。
量と測定	平均正答率は、宇都宮市の平均を6、7%上回った。角の大きさを読み取ったり、基本的な図形の面積を求めたりする問題の正答率は90%を超えた。一方で、角の大きさの検討をつけたり、身近にあるものの面積を推察したり、複合図形の面積を求めたりする問題では、正答率が低かった。	角や面積に関する基本的な知識や技能は身に付けている。今後は、角の大きさの検討をつけたり、身近にあるものの面積を推察したりする問題を克服できるように、日常生活においても、意図的に面積や角度に目を向けさせ、数学的な感覚を育てていきたい。
図形	平均正答率は、宇都宮市の平均を3、3%上回った。円や球の直径や半径を求める問題の正答率は、90%ほどであった。しかし、二等辺三角形を作図する問題では、つまづきが見られた。	図形に関する重要事項(用語とその意味など)をしっかり理解させる。さらに、図形の性質について、もう一度復習する。作図に関しては、二等辺三角形だけでなく、平行四辺形やひし形などの図形にも取り組ませ、三角定規を使って作図する方法と、コンパスを使って作図する方法の両方の定着を図る。
数量関係	平均正答率は、宇都宮市の平均を2、4%上回っていた。折れ線グラフと表では、二次元表を正しく読み取ることができ、正答率は90%ほどであった。しかし、二次元表を利用して求める問題では、正答率が低かった。また、四則の混合した式の計算でつまづきが多かった。さらに、分配の法則を正しく理解していない解答が目立った。	四則の混合した計算問題に繰り返し取り組ませ、定着を図る。また、分配の法則のしくみを再度解説し、正しく理解できるように支援していく。計算の技術は高いので、数量関係に関連した問題を数多く解くことで、計算のきまりを確実に習得させるようにする。折れ線グラフと表では、二次元表を正しく読み取ることができたので、今後は、二次元表を利用して問題を解く活用問題に重点的に取り組ませ、習熟を図りたい。